

「海をきれいに、安全に、秩序正しく」

海上保安友の会札幌支部



会 報 (第 3 4 号)

平成 3 1 年 3 月 1 5 日 発行



北海道胆振東部地震による大規模停電で給電サービス中の巡視船えさん(9月7日)

海上保安友の会札幌支部事務局
〒047-0007
小樽市港町5番2号 小樽地方合同庁舎
小樽海上保安部 管理課 内
電話 0134-27-6118 FAX0134-23-9700

会員数 2 0 2 名 (正会員 9 7 名、家族会員 1 0 5 名) (H31.3 現在)

北海道胆振東部地震による大規模停電発生！！！！

～24時間体制で充電サービス～

平成30年9月6日午前3時7分ころ、北海道胆振東部で発生した震度7の地震により、北海道全域において大停電が発生しました。

震源となった胆振地方厚真町周辺等内陸部の被害状況は、皆様もご存知のとおり悲惨なものとなりましたが、今回の地震による津波の発生は無く、沿岸部に大きな被害は確認されませんでした。

この地震の影響で、北海道内の発電所全てが一時停止してしまい、これまで北海道民が経験したこともない大規模な停電が発生しました。

地震発生から3日目で電力はほぼ復旧しましたが、その間、小樽海上保安部では、被害調査終了後、巡視船えさん及びしれとこ乗組員により、えさん着岸岸壁において、一般の方向けに携帯電話等の充電用として、24時間体制で電力供給の支援活動を実施しました。

この3日間の支援活動で、小樽市民及び海外からの観光客等延べ1,206名もの多くの方にご利用いただき大好評の内に幕を閉じました。



～『浜辺と海をきれいにする会』へ感謝状～

平成31年2月19日、小樽海上保安部は、40年間もの永きにわたり石狩湾岸一体の海浜清掃活動を行うなど、海洋環境保全思想の普及啓発に貢献された功績により、海上保安友の会札幌支部の丹羽理事が会長を務めるボランティア組織『浜辺と海をきれいにする

会』に、梶山小樽部長から感謝状を贈呈しました。

『浜辺と海をきれいにする会』が実施している海浜清掃については、例年、約1,000人規模の参加人数で実施されており、これまで単純計算で約4万人ものボランティアが参加されていることとなります。

今後も、海浜清掃活動に協力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【感謝状贈呈】



【梶山部長(左)と丹羽会長(右)】



【30.9.2 創立40周年クリーンアップ石狩新港浜の様様】



【参加した会員と本部・小樽海保職員で記念撮影】



巡視船ほろべつ金澤潜木士おめでとう!!! ～現役潜木士が初の人事院総裁賞受賞～

平成31年2月14日、巡視船ほろべつ潜木士金澤正信(50歳)が、平成30年度人事院総裁賞(個人部門)を受賞しました。

人事院総裁賞は多年にわたる不断の努力や国民生活の向上への顕著な功績等により、公務の信頼を高めることに寄与したと認められる国家公務員又は団体に贈られます。(昭和63年創設、今年31回目)

今回受賞の理由は、皆様も既にご承知のとおり、現役最高齢潜木士として、長年にわたり数多くの救助活動に従事するとともに、後進の指導・育成にも積極的に取り組み、海上保安庁のみならず他機関の潜木士の模範となるなど、公務の信頼確保に大きく貢献したものです。

この賞を海上保安庁潜木士が受賞するのは、初めてとなります。
これからも海猿のレジェンドとして、後継者育成等活躍が期待される所です。

【受賞式の模様】



【受賞した金澤潜木士】



【投稿記事】

～石狩灯台一般公開に参加して～

海上保安友の会札幌支部
理事 岩井 容子

平成30年9月23日、石狩さけ祭りに合わせて、石狩灯台が一般公開されました。当日は、晴れ女を自称している私のパワーか好天に恵まれ、朝早い時間から大勢の見学者が集まったため、10人ごとに分けての見学となりました。

ご存知のとおり、石狩灯台は「悲しみも喜びも幾年月」の舞台となった灯台で、歌詞碑も建っています。

外壁は塗装し直されているようで、きれいな赤白の灯台が、遊歩道のある広い湿原にすくっと立っている姿は壮観です。



きれいな外観とは別に、内部に入ってみると年季を感じる木の壁の内装になっており、鉄製の急な螺旋階段を登っていくと灯室に出ます。

現在は、性能の良い小型レンズになっていますが、初代はとても大きなレンズが使用されていたようで、灯台脇のヴィジターセンターに展示されていました。

灯室の外に出ると凄い風で飛ばされそうですが、石狩川の河口が一望でき、すばらしい景色でした。

石狩灯台と小樽の日和山灯台とで、石狩湾を照らし船舶運航の安全を守っているそうですが、肉眼では日和山灯台は見えませんでした。(当たり前ですね)



灯台のてっぺんには避雷針がついており、何年かに一度は落雷し、電気系統が故障してしまうこともあるそうです。

余談ですが、海上保安庁の総予算は、東京消防庁より少ないそうです!!!

日々、日本の広い海の安全を守っている海上保安庁の多岐にわたる活動には、頭のさがる思いですが、もっと広く海上保安庁の活動を知ってもらえるように尽力したいと思います。(そしたら、少しは予算多くなるかな?)

残念なことに、灯台150年イベントの灯台カードの発行は、11月1日から開始だったため、記念すべき灯台カード第1号は、石狩灯台とはなりませんでしたが、これからも灯台女子(?)として恥ずかしくないよう、全道、全国の灯台カードゲットに邁進したいと思います。

～目指せ次世代の海上保安官！～

海上保安友の会札幌支部
理事 長谷山 豊

9/29(土)晴天の中、小樽海上保安部による小樽市内の小中学生を対象にした巡視船「えさん」による体験航海を道内で初めて実施した。

【えさん乗船式】



今回の企画は、日頃、地元の子供たちが見ることの少ない「海上からの小樽市」と「海上保安官の仕事」を知ってもらうために、午前と午後に分かれて保護者も含めて230名が参加して実施された。

参加者は数班に分かれて船内を見学。普段見ることの出来ない船内各所を興味深々で説明を受けていた。

【密漁船捕捉訓練】



その後、総合訓練さながらの「やぐるま」による密漁船捕捉訓練や火災船消化訓練等に参加、「えさん」の放水銃の遠隔操作体験やウェットスーツ着用体験なども行われた。

あっと言う間の2時間だったが、参加者は、港町小樽を海上から満喫したようだった。

【火災船消化訓練】



【海猿訓練見学】



～「大型客船事故対応訓練」を見学して～

海上保安友の会札幌支部
会員 高橋 司

平成30年10月15日、朝から綺麗な秋晴れの空が広がる中、小樽港沖で「大型旅客船事故対応訓練」が実施され、巡視船「えさん」の船上より訓練を見学してきました。

今回は、近年道内主要港へも寄港回数の増加している、大型クルーズ船の座礁事故を想定した訓練で、新日本海フェリーの「らべんだあ」14,125tを使用し、外航クルーズ船において多数の負傷者を伴う海難が発生した場合の応急対策に係る訓練を、関係機関と合同で行なうもので、海保のほか、道防災ヘリ、道警ヘリが参加しました。

「えさん」第一公室で、担当職員から本日の訓練内容、注意事項の説明を受け、ながら小樽港沖の訓練海域へ向かいました。途中、小樽海保梶山部長の案内で来賓の方々と、船内見学をし、船橋、機関室、曳航機器室等を見せていただきました。

コンパスデッキ上で、訓練関係来賓者が見守る中、訓練が開始され、座礁したクルーズ船から退船避難した乗客が乗った膨張式救命筏を巡視船「ほろべつ」の警備救難艇が救助曳航し、巡視艇「すずかぜ」に移乗させ、巡視船「ほろべつ」移送させる連携訓練、3機関のヘリコプターにより船内に残る要救助者を空中から救助揚収する訓練が行なわれました。各機関のパイロットの操機技術の高さ、救難士の迅速な降下、要救助者揚収の速さ的確さに日頃からの一つ一つの訓練が人の命・仲間の命を守る厳しい訓練の成果である事を目の当たりにし実感しました。



最後は巡視船「えさん」による「旅客船曳航訓練」でした、まず、巡視船「ほろべつ」の潜水士がクルーズ船に乗り込み、巡視船「えさん」の船尾から繰り出された索長約200mの曳航索を警備救難艇によりクルーズ船迄曳航し、船上の潜水士により船首甲板上のボラードへ取り付ける作業が行なわれ、各部署とも黙々と作業をこなす姿、連携の良さに感心させられました。準備が整い、巡視船「えさん」がスローで前進し曳航訓練が開始され、索の張り合わせ迄の訓練では有りましたが、現場には一歩間違えれば大事故に繋がる為、乗員の緊張感が伝わってきました。

こうした日々の訓練の積み重ねで海の安全が守られ、大切な命が救われているのだという事を、改めて実感することができました。このような貴重な訓練を見せていただいた、小樽海上保安部の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

【えさんによる大型客船曳航の状況】



～海の上の雪あかり～

海上保安友の会札幌支部
理事 澤田奈緒美



小樽では毎年2月に、「小樽雪あかりの路」というイベントが開催されます。

小樽運河や旧手宮線、朝里川温泉など、市内各所に会場が設けられ、手作りのアイスキャンドルやスノーキャンドル、ワックスボウルなどが飾られます。

それぞれの会場で趣向を凝らした演出が行われ、その幻想的な雰囲気を楽しむために、多くの観光客が訪れる冬の一大イベントです。小樽市民をはじめ、国内外からもボランティア

が多数参加し、その人数は開催期間の10日間で、2000人近くにもなるそうです。たくさんの方々に支えられている温かみのあるイベントで、私も毎年楽しみにしています。

今年はこの「小樽雪あかりの路」に合わせて、巡視船えさんでイルミネーション点灯が行われました。えさん（PL12）は、小樽海上保安部所属、全長96m、総トン数1500tの巡視船で、小樽港の第2埠頭に停泊していま



す。小樽駅から海に向かい、第一管区海上保安本部、小樽海上保安部の入った合同庁舎の横を過ぎると、前方右手にその姿を臨むことができます。

日中のえさんは、白く大きな船体が青空に映えてとても凛々しく見えますが、夜、停泊灯が灯された姿もまた魅力的です。今回はイルミネーションということで、どのような雰囲気になるのかとワクワクしながら小樽港に向かいましたが…その美しさに、思わずため息がもれました。

丁寧に配置された電飾が、船体を美しく照らしています。イルミネーションが夜の海に映り込み、まるで花火のナイアガラのようなようです。冷たく澄んだ洋上の空気とその光はいつそう輝かしく感じられ、静かな波の音をBGMにしながら、長らくその美しい姿に見とれていました。ちょうど近くを通りかかった観光客の方々も、えさんのイルミネーションに歓声をあげ、その姿をカメラに収めていました。もっと間近で見てみたくなり、10号岸壁まで行ってみましたが、船首から船尾までとてもきれいに照らされていて、日中とはまた違った華やかな雰囲気を楽しむことができました。

海保の方々が、多忙な業務の中でイルミネーション点灯を企画・実施してくださったこと、海保ファンの一人としてとても嬉しく思います。港町ならではの、海の上の特別な雪あかりを存分に堪能することができました。海保の皆さん、本当にありがとうございました。



～天皇陛下御在位30年記念にて～

海上保安友の会札幌支部
会長 徳梅 真

札幌支部の皆様におかれましてはいかがお過ごしのことでしょうか。

この度、さる2月24日(日)に天皇陛下御在位30年記念に併せて、小樽海上保安部所属の巡視船等が満船飾を実施するとの情報を入手したことから、家内と小樽港や日和山灯台を見学に行きました。

小樽港に着くと巡視船えさんが係留中で、菊地船長や福士業務管理官にお会いすることができました。

そして菊地船長のご好意で、船内に案内されコーヒーをご馳走になりながら、船の説明をお聞きし色々と学習を致しました。

その後、船内見学をさせていただきました。(当然、一般に見学できるところだけでしたが)

発電機の説明の中で、1基の発電機で一般家庭の約230戸分の電力を担うことができるとの説明に驚いたり、船尾では曳航装置の説明で条件が良ければ10万トンクラスの船舶に対応することができるとの説明に「えさん」は力持ちだなと感心したり。

そうこうしているうちに、1時間以上も経過しており、ご案内いただいたことに、ただただ、感謝の気持ちで下船を致しました。

私は、3年前、友の会札幌支部会長として、えさんの就役式にご招待を頂き見学(この時は船内に入れず)を致しましたが、今回のように停泊中だからこそ、拝見ができた区画もあり、大変貴重な体験でした。

【えさん満船飾】



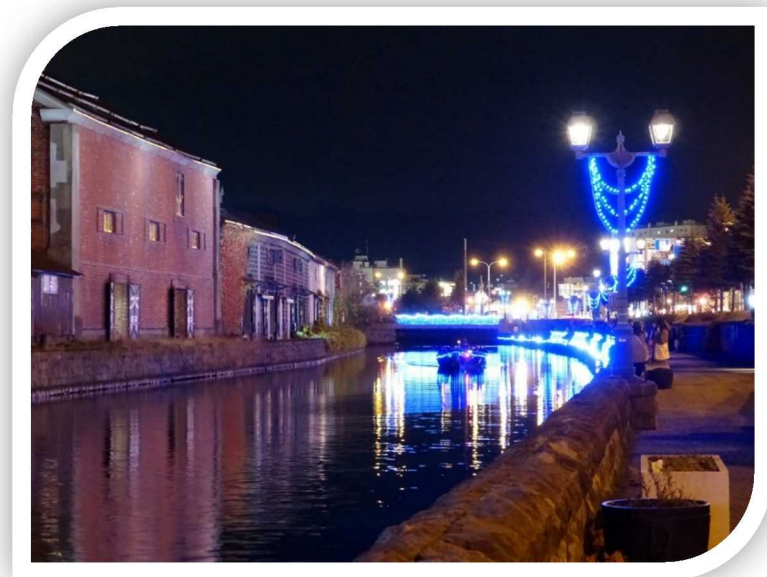
【日和山灯台万国旗掲揚】



【投稿写真】

海上保安友の会札幌支部
会員 高橋 司

【青い小樽運河】



♪♪原稿・写真募集中♪♪

会員皆様の投稿記事又は写真などをお待ちしています。
次の送り先に郵送又はFAXにて送付してください。

送り先：海上保安友の会札幌支部事務局
〒047-0007 小樽市港町 5-2 小樽海上保安部内
TEL0134-27-6118 FAX0134-23-9700